

## MOTOR SPORT HISTORY

### "スイート200"、アイルトン・セナが最後の夜を過ごした部屋

text:Yuko NOGUCHI (野口祐子) caption:Takehisa YAMADA (山田剛久)  
photo:Massimiliano SERRA (マッシミアノ・セッラ)  
取材協力:Hotel Castello <http://www.hotelcastello.com/>



サンマリノGP開催時のアイルトン・セナの定宿であった『ホテル・カステッロ』はイモラ・サーキットから約10キロの温泉地にあります。セナが常に泊まっていた"スイート200号室"は概ね当時のままの姿で維持されており、もちろん宿泊することも可能となっています。

先月号で記事になったティレル P34/5は走行シーンの撮影をイモラ・サーキットで行いました。そしてその帰路、我々取材チームは少し足を延ばして『Hotel Castello(ホテル・カステッロ)』に立ち寄ることになりました。アイルトン・セナの足跡を追うには欠かせない場所であるこのホテルは、イモラ・サーキットから約10キロ、ボローニャから約20キロの"Castel San Pietro Terme (カステル・サン・ピエトロ・テルメ)"という温泉地にあります。

このホテルは1989年8月にオープンし、翌月の9月から事故で亡くなる1994年までアイルトン・セナの定宿となっていました。F1チャンピオンの定宿と聞くと、どんな豪華なホテルなのかと

想像してしまいがちですが、行ってみると何処の街にもある普通のホテル。先ずはその落差に驚く方が多いでしょう。このホテルからは、常にシンプルなものを好んだというアイルトン・セナという人物の一面がうかがわれます。

オーナーであるレイザ・トゾーニさんに何故セナがこのホテルに滞在するようになったのかを伺いました。

「多分セナさんはイモラ・サーキットにヘリコプターで通っていた時に、上空から緑に囲まれた建設中のホテルを見つけたんだと思うのです。高い所からもHotel Castelloのサインは見えますからね。喧騒を嫌うセナさんはF1の世界から離れ、静かな空間を探していたのではないかしら」

彼女は今でも尊敬の念を込め、セナの名に必ずシニョールを付けて話します。常客であるセナに対し、家族的な対応をしながらも常にある程度の距離を置いて接していたとも言います。その微妙な距離感がセナにとって重要な感覚だったのかも知れません。

彼女曰く、滞在中サーキットへの往復には常にヘリコプターを愛用していたというセナ。少しでも早く静かな空間へ、少しでも長く静かな場所と、思っていたのでしょう。

2014年、アイルトン・セナ没後20周年に『Suite 200 (L'ultima notte di Ayrton Senna/スイート200、アイルトン・セナの最後の夜)』(著者Giorgio Teruzzi)という書籍がイタリアで出版

されました。この本はまさにこのホテルのスイート200号室をテーマにした物語です。

1994年4月30日、アイルトン・セナは"Suite 200"で人生最後の夜を過ごしました。サンマリノ・グランプリの決勝まであと数時間。金曜日の予選でバリチェロが重大事故を起こし、土曜日にはローランド・ラッツェンバーガーが亡くなりました。悲惨な出来事が次々と起こり、不吉な予感が舞っていたイモラ。輪をかけるように弟のレオナルドが、当時のセナの恋人アドリアンと友人男性との会話を盗聴したテープをセナに聞かせてしまいます。数々の出来事がセナの心を揺るがしました。同著では、決勝前夜を200号室で過ごしたセナの心理状



ホテル・カステッロは緑に囲まれ、鳥が囀る自然豊かな環境。セナはそれがお気に入りだったようです。ロビーでは、世界中のファンから寄贈されたメモリアリアの展示も。このホテルがセナ・ファンに知られる契機となったのは、2014年に、ジョルジオ・テルツィが書いた「スイート200、アイルトン・セナの最後の夜」という書籍が出版されたことでした(下:同著表紙)。





セナの定宿だったホテル・カステッロのスイート200号室内観。メインのドアを開くと左にベッドルーム、右にリビングのドア。2つの部屋は各々独立しています。調度はコンパクトかつシンプル。1994年4月30日、即ち事故で亡くなる前の晩もセナはここに泊まりました。

態をF1ジャーナリストであるジョルジョ・テルツィが時系列で検証しています。セナをよく知る彼こそが書けた名著であり、イタリアはもとより、スペイン、ベルギーでも出版されました。そしてこの本を契機として、『ホテル・カステッロ』は世界中のセナ・ファンに知られることとなったのです。

ルイザに"スイート200号室"を案内してもらいました。2部屋続きのスイートですが、ホテル同様とてもシンプルな作りです。25年も経つと周りの景色も少しは変わったでしょうが、窓から見える緑は今も同じ。朝は鳥の囀りが聞こえるといいます。エンジン音とオイルの匂いと人の波の世界とは雲泥の差。セナは「この景色が故郷ブラジルの家か

ら見える風景に似ていて心が安らぐ」と語っていたといいます。しかし果たして"あの日"の朝も、窓からの風景は彼の気持ちを鎮めてくれたのでしょうか。浴槽や消耗品は交換したものの、インテリアや家具の殆どはセナと時間を共にした当時のものが置かれている、とのこと。この部屋に立ち、セナのことを思うと、なんとも言えない儂い気持ちになり、心臓の音がトントンと鳴り出し、まるでセナがこの部屋にいるような感覚を覚えました。

ルイザは言います。「セナさんは世界中で知らない人がいないくらいF1界の王者でしたが、ここではごく普通の方でした。普通の世界に身を置くことが彼にとって安らぎだったのでしょうか。同時

に彼は私たちにとって、特別な存在でした。ご自分の中に崇高な世界を持っているような方でした」。

ルイザの亡くなられたご主人は外見がセナによく似ており、親戚にもよく間違えられたそうです。そんなことを面白く感じていたのか、セナはイモラ入りすると、よく主人とふたりで行動をともにしていたと言います。今でもホテルには世界中からセナ・ファンがやって来て、スイート200に泊まりたいという要望は後を絶ちません。ルイザは本の出版を機に、このホテルに来てくださったファンの方々のためにダイアリーを用意しました。そこにはファンの方々のそれぞれの思いが各国の言語で書かれています。この沢山のメッセージが天国にいる

アイルトン・セナに届くように、と。

今年はセナ没後25年。各地でイベントが行われます。イモラを訪れた際には是非、ホテル・カステッロに足を運んでセナへのメッセージを残し、できればスイート200号室に泊まり、セナの思い出に浸ってみては如何でしょうか。



## セナの定宿だった『ホテル・カステッロ』

Hotel Castello  
●<http://www.hotelcastello.com/>

今や世界中のセナ・ファンにとっての聖地ともなっている『ホテル・カステッロ』には、各国から熱心なファンがやってくるといいます。そしてもちろん、スイート200に泊まりたいという要望が多いそうです。オーナーのルイザ(写真右)は、このホテルに来てくださったファンの方々のためにダイアリーを用意しています。そこにはファンの方々の気持ちが各国の言語で書かれています。セナ没後25年の今年、もしイモラ・サーキットにいらっしゃるなら、是非ホテル・カステッロへも足を運んでダイアリーにメッセージを残しましょう。

